



発行日 2007年 5月25日 第23号

発行 札幌歯科医師会口腔医療センター

〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目

TEL(011)512-9497 FAX(011)511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人 菊田 浩一 発行責任者 藤田 一雄

口腔医療センターでの日帰り全身麻酔について

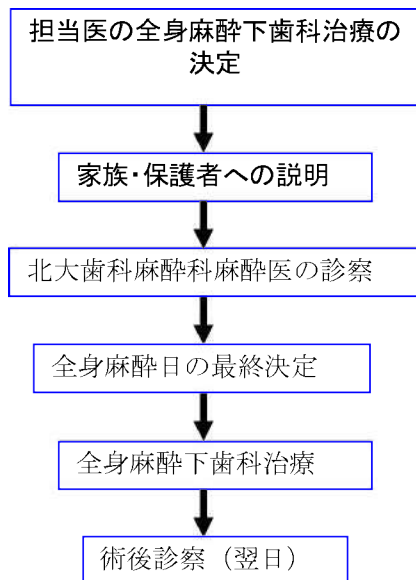
一障がいのある患者さんが安全で効果的な歯科治療を受けられるために—
口腔医療センター障がい者診療部 副部長 谷脇 明宏



歯科治療は細かい作業が多いため、患者さんの理解、協力が得られないと十分な治療が出来ません。さらに、治療時には治療器具の音が出ることもあるため、自閉症や知的障がいを持った患者さんは、治療に不安、恐怖心を持ち、歯科治療を拒否してしまうことが少なくありません。また、脳性麻痺などの患者さんでは、体を安定させることができないため、治療に難渋してしまうこともあります。

当センターでは、このような障がいのある患者さんが安全で効果的な歯科治療を受けられるために、昭和58年11月より北大歯学部歯科麻酔学教室の協力を得て、日帰り全身麻酔下歯科治療を行ってきており、その症例数も現在では400例を越えています。今回は、この日帰り全身麻酔について少しお話ししたいと思います。

当センターでの全身麻酔下歯科治療は、金曜の午前中に行われています。全身麻酔というと、入院をして治療すると思う方も多いと思いますが、当センターの障がい者治療の特色として、日帰りでの全身麻酔下歯科治療を行っており、これにより、入院するなど患者さんの負担がとても軽減されます。全身麻酔下歯科治療の流れを右図に示します。歯科治療に協力が得られない、全身麻酔下で歯科治療を行った方がより安全、確実に歯科治療ができると担当医が判断した場合、患者さんの家族・保護者の方に全身麻酔の必要性を説明し、北大歯科麻酔科の派遣医の診察を受け、患者さんの全身状態に問題のないことを確認した後、治療日の最終決定をします。治療の基準は、1時間以内に治療が終了される位の処置内容の場合です。



(全身麻酔下歯科治療のながれ)



全身麻酔は、危険な処置であると思われる方が少なくないと思います。しかし、近年では、麻酔薬の進歩や麻酔管理の安全性が向上しており、安心して処置を受けられるようになりました。ただし、さまざまな薬を服用していたり、全身的な疾患を有している患者さんの場合は、特殊な管理が必要となるため、北大病院、または札幌医大口腔外科、北海道医療大学病院を紹介しています。

障害をもっている方々の歯科診療にたいし、当センターではTell-Show-Doやモデリング法などの行動変容法やTEACCH法などの手法を行い、健常者と同様のノマライゼーション手法による診療も導入し効果を上げております。しかし、これらの手法を使っても歯科治療が難しい場合は、安全で集中的な歯科治療を行う上で、全身麻酔はより効果的な管理手法と考えています。それはいつまでも歯科治療が進まず、患者さんに苦痛を与えているよりは、集中的に困難な歯科治療を終え、その後、定期的な虫歯、歯周疾患などのお口の管理をしながら、歯の治療のトレーニングを行っていく方がより効果的と考えられるからです。健康な口腔を保ち、より美味しく食べられ、QOLの高い生活が出来るように、障がいを持っている方々に、当センターはお役に立ちたいと思っております。

口腔センター 第2回「介護・口腔ケアセミナー」開催

「患者外来受診場面・在宅歯科治療場面における 動作介助について」



講師 医療法人秀友会
訪問部統括部長
在宅リハビリテーション所長

赤羽根 誠 理学療法士・介護支援専門員

「こうすると楽に立ち上がらせられるんだね。」

「あっそうか、相手に余計なところに余計な力をかけずに済むもんね。」

「こんなことにいまさら気づくなんて！」

「健常な僕たちには当たり前でいつも自然にできる動作なんだけど、麻痺や障がいを持つ高齢者にはそんなに簡単じゃない。」

「だからこちらもひとつひとつの動作の原理を力学的に理解していなきゃ介助できないんだね。」

去る2月6日医療法人秀友会の訪問部統括部長・在宅リハビリテーション所長でいらっしゃる理学療法士・介護支援専門員の赤羽根誠先生に『歯科治療に必要な前準備』と題して、実習形式のセミナーを開催していただきました。

これから高齢化社会を迎え年々診療所に杖をついて来院される方も増え、また訪問診療において「ベッドから降ろす」「立ち上がらせて洗面所へ連れて行き口腔ケアをする」などの機会も増えてくる中で、私たち歯科医療従事者は要介護者の動作介助に必要な知識と技術に十分通じているとはいえません。



高齢の方が診療所に来院される状況では、「靴をぬぐ」「床の段差を上がる」「(杖をもって)歩く」「待合室のいすに座る」「立ち上がる」「歩く」「杖を離して)診療ユニットに座る」「診療ユニットから立ち上がって杖を受け取る」「歩く」「靴をはく」というたくさんの動作があるわけですし、また訪問診療において要介護者の方に「座位での診療」や「洗面所に連れて行って口腔ケアを行う」という状況では「ベッドに寝ている状態を起こす」「ベッドのへりに座らせる」「そこから立ち上がらせる」「車イスなどに移乗する」という場面が考えられるわけで、それらの介助を付添いの人や他の職種の人にばかり頼るというのでは医療従事者として何とも情けないかぎりです。

赤羽根先生はひとつひとつの動作について力学的な原理をわかりやすく説明しながら実演してみせてくれ、私たちもベッドや椅子の上で自分でやってみて、また友人を介助してみても体で会得することができました。
(企画研修部 魚津修司)



会員の先生が患者役となり
ベットからの起き上がり方法を実演する



松原郁子さんのお母様

松原 ひとみ

この4月には、ゆうあい養護学校高等部の3年生になる娘郁子が初めて口腔医療センターにお世話になったのは、12年も前の幼稚園の時でした。

奥歯の痛みを訴えて、近所の歯医者さんに通ったのですが、大声で力の限り暴れて抵抗するのを、数人がかりで押さえつけての治療には限界があり、口腔医療センターを紹介していただけました。

一般の歯医者さんと口腔医療センターの一番の違いは、やはりネットを使用することでしょうか。親の目から見て、大勢の大人の思いっきり押さえつけられるより、ネットを使っていた方が、ずっと子どもの心身への負担は軽いと思います。

またセンターの先生や歯科衛生士さん達の子どもへの声かけや接し方には、本当に驚かされ、感銘を受けました。まさにこれぞプロと思いました。おかげ様で、あれ程大暴れして手がつけられなかった郁子も、今では自分ひとりで診察室へ行き、おとなしく(?)治療を受け、涼しい顔で戻ってくるようになりました。

これからも娘と私の二人三脚での口腔医療センター通いはずっと続くことと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



第7回口腔医療センター摂食・嚥下 リハビリテーション症例発表会

平成18年度第2回所員・担当医研修会 開催

さる3月17日、札幌歯科医師会館5階大講堂にて、「第7回口腔医療センター摂食・嚥下リハビリテーション症例発表会」が開催されました。口腔医療センターでは全国に先駆け、摂食嚥下指導外来を平成10年より開設し、「食べられない」「むせることが多い」「肺炎を繰り返す」など、食えることでお困りの患者様に対応、指導をおこなってまいりました。毎年一度、その指導成果をまとめるとともに、センターでのこの事業を会員の皆様に知ってもらうことを目的として開催しております。

今回は当センターより小児の演題が3題、旭川道北口腔保健センターより高齢者の演題1題の発表がありました。小児では8年にわたる指導報告で、心身の成長や、体調や環境の変化により食べる機能の低下が認められた症例、また、センターでは全身の緊張が強く食事を食えることができなかったため、家庭での食事場면을ビデオに撮影していただき、そのビデオを見ながら指導をおこなった症例、さらに指導により舌突出や丸飲みといった習癖の定着を避けることができたダウン症の症例が報告されました。道北口腔保健センターからは脳梗塞の既往のある高齢者で、在宅での摂食・嚥下指導の重要性や、病診連携の問題点などを話していただきました。来年もさらに実りのある発表会にしたいと考えております。

また、発表会に引き続き、今年度第2回所員・担当医研修会として、手稲溪仁会病院耳鼻咽喉科の目須田 康先生をお招きし、「嚥下障害の外科的治療とカニューレ管理」の演題でご講演をいただきました。目須田先生は耳鼻科医のなかでも「嚥下＝飲み込み」・「音声＝ことば」を専門にされており、道内でも大変ご高名な先生です。



目須田 康先生



歯科関係者とは違う角度から同じ障がいにあらずさわっており、われわれとしても摂食・嚥下指導への知識を深めることができました。また症例発表会にもご出席いただき、耳鼻咽喉科医のお立場から貴重なご指導、ご助言をいただきました。目須田先生長時間にわたり大変ありがとうございました。

土曜日の症例発表会・研修会の出席者は、52名でした。

(内訳)

所員 14名、担当医 9名、
摂食関係者(指導医・研修医) 15名、
会員 7名、見学者・歯科衛生士ほか 7名
(企画研修部 及川 透)



救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

診療のご案内

診療時間 : 19:00~23:00

受付開始時刻 : 18:30

年中無休

電話番号 : (011)511-7774

障がい者診療部からのお知らせ

障がい者診療部は完全予約制になっております。

診療のご案内

予約時間 : 火~金 9:15~17:15

診療時間 : 月 14:00~17:00

火~土 9:30~17:00

金 9:00~17:00

(午前中は全身麻酔下診療)

電話番号 : (011)512-9497



今年も歯っぴいらんどの季節になりました。

札幌歯科医師会が主催する体験型イベント歯っぴいらんど2007が今年も6月9日(土)午前10時よりサッポロファクトリー・アトリウム広場で開催されます。

去年は「よさこい」と同日でしたがたいへん盛り上がりしました。今年も企画がいっぱいです。是非いらしてください。詳しくはぱるす21号をご覧ください。ぱるすはセンターのホームページでもご覧になれます。

というわけで今回は歯っぴいらんどのPRを編集後記にさせていただきます。



編集長 企画研修部長 中澤 潤